ケロちゃん通信　第105号
2024年7月

あたごこどもクリニック
940-0038　長岡市琴平1丁目2-1　電話番号　0258-36-5810
http://www.nagaoka-iryou-seikyou.jp/

☆ 今年の梅雨入りは遅かったですが、梅雨入り前より真夏のような暑さが続いていました。梅雨明け後は、更なる猛暑にならないことを願っています。アジサイや夏椿も花を咲かせてくれて心が和みます。夏の植物の水やりも暑くて大変そうです。

☆ コロナ後、溶連菌、アデノ、感染性胃腸炎、マイコプラズマ、手足口病など様々な感染症が流行しています。しかし抗菌薬をはじめ、今まで普通に処方できていた薬が全国的に不足しているという異常事態が続いています。早く安定供給されることは願うばかりです。

☆ 6月8日に長岡中央図書館で「ほんとうに発達障害？」というタイトルの講演会を開催し、多くの方に参加していただきました。貴重なお休みを使って参加していただきありがとうございました。

☆ 7月1日で、当院開院9周年になります。皆様のおかげで何とかやってこられました。これからも地域のためにがんばりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

7、8月の診療予定
本間医師　7月5日午前午後、12日午前
　　8月2日午前、　　9日午前午後

7月　3日(水)代休　←　7月20日(土)午後外来、
8月　1日(木)代休　←　8月17日(土)午後外来、
8月　2日(金)午前:本間医師代診
8月　2日(金)午後：長岡まつりのため休診
8月13日（火）、14日(水)：お盆のため休診

診療案内

・感染予防のため、発熱、かぜなどの急性疾患を主に診る**一般外来**と慢性疾患（感染性のない疾患や定期処方など）を診る**慢性外来**の診療時間を分けています。

	月	火	水	木	金	土
8:30	一般外来（急性疾患）					
10:30～						
11:00		予防接種健診（1歳未満）			予防接種（1歳以上）慢性外来	
11:45 12:00						
13:30	発達外来					
14:00	予防接種健診（1歳未満）	予防接種（1歳以上）慢性外来				
15:00 17:30	一般外来（急性疾患					

・一般診察枠内にも予防接種枠がありますので、ご利用下さい。
・スマイリーでは、急性疾患は「一般外来」から、慢性疾患・定期処方等は「慢性外来」からご予約下さい。
・もちろん、急を要するような場合にはすぐに　ご連絡下さい。
詳しくはホームページのお知らせをご覧下さい。

注意欠如多動症(ADHD)-1

こどもは落ち着きがなく、癇癪を起しやすく、自分の気持ちを抑えるのが苦手です。順番待ちや片付けも苦手で、周囲の状況も考えずに行動しがちです。それが原因で、幼稚園や学校にうまく適応できないお子さんもいます。こどもなら誰にもあることですが、それが性格や個性なのか、発達障害の症状なのか、見極めが難しい場合もあります。定型発達では、2, 3歳をピークに年齢相応に落ち着いてきますが、年齢を重ねても落ち着かないこどもたちもいます。大切なのは症状があるか、ないかではなく、その程度および年齢相応であるかということです。集団生活に支障をきたしたり、友達関係にも影響したり、基本的な生活ルールも守れないようであれば支援や治療が必要な場合もありますのでご相談ください。

＜ADHD(Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder)とは＞

医学的な診断基準では(DSM-Ⅴ)、「ADHDとは年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力および衝動性、多動性を特徴とする症状がある行動の障害で、症状は12歳までにあらわれ、学校と家庭など2つ以上の環境でみられ、社会的な活動や学業の機能に支障をきたし、他の精神障害などで説明できない」ものとされています。症状があるからといってADHDというわけではなく、これらすべての基準をみたした場合に診断されます。特に、症状によって社会的、学業的に機能を損ねていて問題が生じているかどうかが診断の大きなポイントになります。しかし、あくまでも症状による操作的診断であり原因がわかっている生物学的診断名ではありません。今後、原因がわかったり、考え方が変わったりすれば診断基準そのものも変わる可能性はあります。

診断をつけるということは、支援していくための足掛かりになりますし、自分や家族が納得でき、保険診療で薬物療法ができたり、福祉制度が利用できたりするメリットもあることは確かです。しかし、診断する場合、される場合にはその意味をよく考える必要があります。

＜症状＞

具体的な症状として、多動、衝動性の症状としては「落ち着きがない、じっとしてられない、授業中に座っていられない、考えてから行動できない、衝動的な行動をしブレーキが効きにくい、すぐに切れて乱暴してしまう、順番が待てない、欲しいと思うとすぐに手を出してしまう、会話の流れを考えずに思いついたまま突然話し出す」、不注意の症状として「ぼーっとしてる、忘れ物が多い、整理整頓が苦手、身だしなみに気がまわらない、 集中力が長続きしない、最後までやりとげられないなど」などの症状が、ある程度以上の重さを持って存在します。成人期のADHDでは、「仕事を頻繁に変える、長く単調な仕事に注意を集中し続けることが難しい、些細な妨害が入ったり、新しい刺激があると重要な課題からそれてしまう、金銭・旅行・仕事・その他の企画に衝動的に判断する、自動車事故が多い、大きな怪我をする」などの症状がみられます。

＜発症機序、原因＞

こどもの脳は、とても活発に活動し脳血流、脳酸素代謝、脳糖代謝、シナプス数、ドパミンなどの神経伝達物質が大きく変化する時期です。ADHDに関しては特にドパミンやノルアドレナリンとの関係が指摘されています。ADHDの病態としては、仮説ではありますが、実行機能の不調、報酬系機能の不調、デフォルトモードネットワークの不調、時間処理機能の不調などが推測されています。一言でいえば、ADHDは行動、出力系の不調、抑制の不調と言えると思います。これらのことはケロちゃん通信(36号,103号)にも記載されていますので参照ください。